

I. 平成 20 年度事業報告書

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

I. 財団の管理・運営

会議の開催

第 27 回理事会・評議員会 (平成 20 年 6 月 13 日)

平成 19 年度事業報告及び収支決算報告が承認されました。

(株) 共立メンテナンス株、50,000 株の買い戻しが完了したことが承認されました。
中国福祉医療人材育成基金の 2008 年 10 月奨学生候補者 1 名の決定が承認されました。
2007 年度、2008 年度の奨学生の辞退が承認されました。

第 28 回理事会・評議員会 (平成 21 年 3 月 4 日)

平成 21 年度事業計画及び収支予算、平成 21 年度奨学生 57 名等が承認されました。
一般財団法人移行が承認されました。一般財団法人移行に伴う「最初の評議員の選任方法（案）」、「評議員選定委員会委員名簿（案）」、「最初の評議員候補者の推薦案」について、承認されました。(株) 共立メンテナンス株式増株分 348,000 株を基本財産へ戻入れることについて承認されました。

臨時理事会・評議員会

(開催通知発出 平成 20 年 4 月 14 日、議事採決 平成 20 年 4 月 30 日)

中国の福祉・医療に携わる中国人の人材育成の為に学習支援の奨学金の寄付を受け入れることについて、及び「中国福祉医療人材育成基金」を設立し、奨学金の支給を行うことについて、承認されました。

第 16 回選考委員会 (平成 21 年 2 月 16 日)

奨学金対象校から推薦のあった平成 21 年度奨学生候補者 315 名及び現地(大韓民国)奨学生候補者(5 名)について、審査の結果、(財) 共立国際交流奨学財団奨学金 15 名(現地(大韓民国)採用 3 名)及び(株) 共立メンテナンス奨学基金奨学金 25 名(現地(大韓民国)採用 2 名)の合計 40 名(現地(大韓民国)採用 5 名)を平成 21 年度奨学生候補者として選考しました。

II. 奨学金支給事業

留学生奨学金の支給

平成 19 年度(財) 共立国際交流奨学財団奨学金 14 名及び平成 20 年度(財) 共立国際交流奨学財団奨学金 14 名、(株) 共立メンテナンス奨学基金奨学金 25 名、合計 53 名に平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月まで、奨学金((財) 共立国際交流奨学財団奨学金 月額 10 万円・期間 2 年間、(株) 共立メンテナンス奨学基金奨学金 月額 6 万円・期間 1 年間)を支給しました。

平成 20 年度中国福祉医療人材育成基金奨学金 1 名に平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月まで、奨学金（中国福祉医療人材育成基金奨学金 月額 10 万円・期間 1 年間）を支給しました。

現地奨学金を、ベトナム 6 名、ラオス 6 名、ミャンマー 3 名 計 15 名に支給しました。

Ⅲ. 寄附金募金事業

特定非営利活動法人国際人材育成機構（中国福祉医療人材育成基金奨学金 1 名）からの寄附金を受け入れました。

Ⅳ. 国際交流支援事業

1. 研修会の開催

奨学生及び一般学生（留学生、日本人学生）も参加し、相互理解と国際親善・交流を促進するための研修会を実施し、訪問地におけるホームステイ、史跡・歴史的建造物見学、ディスカッション等を通して、日本の文化、歴史、自然についても理解を深めました。

<各研修会報告>

第 41 回 奨学生研修会

開催地：日光・鬼怒川温泉

開催期間：平成 20 年 5 月 31 日～6 月 2 日 2 泊 3 日

参加者：(財) 共立国際交流奨学財団 2007 年度、2008 年度奨学生 26 名

内容：日光東照宮見学、戦場ヶ原自然研究路散策

第 42 回 研修会

共催：(財) 共立国際交流奨学財団、(財) 北海道国際交流センター

開催地：北海道 札幌・函館地域

開催期間：平成 20 年 8 月 17 日～24 日 7 泊 8 日

参加者：留学生 35 名

内容：ファーム体験、ホームステイ

第 43 回 研修会

共催：(財) 共立国際交流奨学財団、オホーツク国際交流センター

開催地：北海道 オホーツク地域

開催期間：平成 20 年 8 月 21 日～27 日 6 泊 7 日

参加者：留学生 18 名

内容：ホームステイ、地域交流参加

第44回 研修会

共 催：(財) 共立国際交流奨学財団、(財) 北海道国際交流センター
開 催 地：北海道 函館地域
開催期間：平成 20 年 12 月 10 日～14 日 4 泊 5 日
参 加 者：30 名（留学生）
内 容：ホームステイ、学校交流、ガラス作り体験など

第45回研修会

開 催 地：沖縄（本島・伊江島）
開催期間：平成 21 年 2 月 23 日～2 月 28 日 5 泊 6 日
参 加 者：日本人学生 1 名・留学生 44 名
内 容：伊江島にて民泊体験、東村にて農作業体験など

V. 生活支援事業

留学生の生活支援を行うため、蕨女子学生会館、武蔵浦和女子学生会館、つつじヶ丘男子学生会館、相模大野学生会館の国際交流会館 4 棟の管理・運営を行いました。

また、大学、専門学校及び日本語学校（1 校 3 名以内）に提供する「奨学寮」を札幌地区 1 大学、東京地区 6 大学、名古屋地区 3 大学、関西地区 6 大学・4 専門学校・1 日本語学校に計 60 名分提供しました。

VI. 教育事業

日本語教育施設として日新アカデミー日本語学校の管理・運営を行いました。

VII. 出版物

財団紹介のパンフレット『財団法人共立国際交流奨学財団（紹介・情報案内）Vol. 14』情報誌『アジア文流 Vol. 24』、『アジア文流 Vol. 25』、『留学生の就職情報誌「共立・桜」Vol. 11』を出版し、文部科学省、関係機関、奨学財団、大学、専門学校、日本語学校及び奨学生などに配布しました。

VIII. イベント事業

1. 第9回『日本人学生の「アジア体験」コンテストto Vietnam』の開催

当財団主催、外務省、文部科学省、駐日ベトナム大使館、産経新聞社後援、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストの企画募集及び選考を行い、2008年8月9日共立メンテナンス会議室を表彰会場として入賞者の表彰式を開催しました。

標記コンテストは、大学院、大学、短大、専門学校生を対象として、ベトナムで体験してみたいことをテーマに企画を募集しました。応募者11名の中から、審査員による採点審査の結果3名が選ばれました。

入賞者3名は、2009年3月31日までに、それぞれのベトナム体験企画を実施し、その報告書を提出しました。

2. 第1回『日本語体験コンテスト in ホーチミン』の開催

「日越外交関係樹立35周年記念事業」として、当財団主催、文部科学省、在ホーチミン日本国総領事館、特立行政法人国際交流基金後援、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストを、2008年8月30日ベトナム社会主義共和国ホーチミン市さくら日本語学校を会場として開催しました。

日本の高等教育機関に留学を希望する学生や、日本語を現地のベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、さくら日本語学校、ドンズー日本語学校で学んでいる学生を対象に実施し、91名の応募がありました。

午前中に行われた予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、社会、地理に関する選択式の聴き取り問題30問が出題され、22名が予選を通過し、午後の本選会に出場しました。本選会では、3分間の即興スピーチを行い審査員による採点審査の結果、入賞者5名が選ばれました。

入賞者5名は「夢・日本体験賞」として賞品旅行6日間（2009年2月2日～2月7日）に参加し、日本の学校見学、研修観光等のプログラムを通し、日本の教育環境、文化などに触れ日本について理解を深めました。

3. 第11回「日本体験コンテストin大韓民国」の開催

当財団主催、文部科学省、駐大韓民国日本国大使館公報文化院、東亜日報後援、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストの企画募集及び選考を行い、2008年9月27日、大韓民国ソウル特別市ロッテホテルを表彰会場として入賞者の表彰式を開催しました。

標記コンテストは、大学院、大学校、大学生を対象として、日本で体験してみたいことをテーマに企画を募集しました。応募者49名の中から、審査員による採点審査の結果5名が選ばれました。

入賞者5名は、2009年3月31日までに、それぞれの日本体験企画を実施し、その報告書を提出しました。

4. 「2009 年度奨学生現地（大韓民国）選考会」

日本の教育機関（大学院、大学、専門学校、日本語学校）に進学を希望する応募者 148 名に対し、当財団須郷選考委員長、菊川選考委員が日本語による面接を行い、当財団奨学生 3 名、(株) 共立メンテナンス奨学基金奨学生 2 名を 2009 年度奨学生候補者として選考しました。

5. 「第 6 回日本語体験コンテスト in 上海」の開催

当財団（東京本部・上海委託事務所）主催、文部科学省、在上海日本国総領事館後援、中国南方航空公司、(株) 共立メンテナンス協賛の標記コンテストを 2008 年 10 月 19 日、中華人民共和国上海市甘泉外国語中学校を会場として開催しました。

日本の高等教育機関に留学を希望する学生や、日本語を学んでいる中国の大学生、高校生を対象に実施し、大学、短期大学生 77 名、高校生 72 名の応募がありました。

午前中に行われた予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、社会、地理に関する選択式の聴き取り問題 30 問と日本語のことわざ、敬語に関する記述問題 15 問が出題され、17 名（高校生 9 名、短大・大学生 8 名）が予選を通過し、午後の本選会に出場しました。本選会では 3 分間の即興スピーチを行い審査員による採点審査の結果、入賞者 8 名（高校生 4 名、短大・大学生 4 名）が選ばれました。

入賞者 8 名は「夢・日本体験賞」として賞品旅行 6 日間（2009 年 2 月 2 日～2 月 7 日）に参加し、日本の学校見学、研修観光等のプログラムを通し、日本の教育環境、文化などに触れ日本について理解を深めました。